

山頭火の善光寺みち展



残雪の峠を越して、
漂泊の俳人山頭火がやってきた。
長野の善光寺へ。
昭和11年、今から73年むかし
戦前最後のご開帳の直後に。
5月の風に吹かれ、
雨に打たれ、
山頭火がやってきた。



- 〈展 示〉
- ① 信州で書かれた山頭火の書・書簡・句集など
 - ② 信州の自由律俳人たちの短冊・書簡・句集など
風間北光、関口江畔、関口父草、甘利稔郎、
前田若水、内島北朗、荻原井泉水、
松尾あつゆき、栗林一石路
 - ③ 森 獏郎「山頭火の善光寺みち」板画展



街をまっすぐにいよいよ善光寺である。
長野の善光寺か、
善光寺の長野かといわれるほどあって
善光寺はまことにうれしい寺院である。
山門も本堂もがっちりとして
荘厳というほかはない。

(山頭火旅日記 昭和十一年五月二十八日)

会 期：2009年5月27日(水)～5月31日(日)
会 場：北野カルチュラルセンター
主 催：信濃路山頭火の会
●入場無料

《山頭火フォーラム》 5月27日(水)午後2時～
テーマ「信州の自由律俳句と山頭火の
残したもの」

パネリスト：滝沢 忠義(「層雲」同人)
春日愚良子(俳人)
森 獏郎(板画家)
堤 隆(浅間縄文ミュージアム学芸員)



北野カルチュラルセンター (北野美術館別館)

〒380-0845 長野市西後町1603 TEL026-235-4111 FAX026-235-4112